

# 四半期報告書

(第99期第2四半期) 自 平成25年7月1日  
至 平成25年9月30日

日本水産株式会社

---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

	頁
【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	3
第2 【事業の状況】 .....	4
1 【事業等のリスク】 .....	4
2 【経営上の重要な契約等】 .....	4
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	4
第3 【提出会社の状況】 .....	11
1 【株式等の状況】 .....	11
2 【役員の状況】 .....	13
第4 【経理の状況】 .....	14
1 【四半期連結財務諸表】 .....	15
2 【その他】 .....	25
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	26

四半期レビュー報告書

確認書

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年11月13日

【四半期会計期間】 第99期第2四半期(自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)

【会社名】 日本水産株式会社

【英訳名】 NIPPON SUISAN KAISHA, LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長執行役員 細見典男

【本店の所在の場所】 東京都千代田区大手町二丁目6番2号

【電話番号】 東京03(3244)7101

【事務連絡者氏名】 経営企画IR室広報IR課長 杉山健一

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区大手町二丁目6番2号

【電話番号】 東京03(3244)7101

【事務連絡者氏名】 経営企画IR室広報IR課長 杉山健一

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第98期 第2四半期 連結累計期間	第99期 第2四半期 連結累計期間	第98期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (百万円)	277,032	291,611	566,858
経常利益 (百万円)	754	5,775	5,443
四半期純利益又は四半期(当期) 純損失(△) (百万円)	△1,216	3,184	△4,789
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	△1,134	7,477	6,055
純資産額 (百万円)	60,747	71,156	63,297
総資産額 (百万円)	424,409	435,374	421,645
1株当たり四半期純利益金額又は 四半期(当期)純損失金額(△) (円)	△4.40	11.53	△17.34
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	10.21	13.09	11.80
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△2,265	△358	15,136
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△11,573	△3,724	△21,310
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	12,421	2,786	8,495
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	13,647	17,539	18,169

回次	第98期 第2四半期 連結会計期間	第99期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額(△) (円)	△7.14	1.77

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
2. 売上高には、消費税等は含まれていない。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第99期第2四半期連結累計期間は潜在株式がないため記載していない。第98期第2四半期連結累計期間及び第98期は1株当たり四半期(当期)純損失であり、潜在株式がないため記載していない。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はない。

また、主要な関係会社についても異動はない。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況の異常な変動等または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はない。

### 2 【経営上の重要な契約等】

該当事項なし。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、公共投資など政府の経済対策や日銀の金融緩和による円安などから、企業収益に改善の兆しが見られ、個人消費では耐久消費財などで消費税増税前の駆け込み需要があった。

世界経済（連結対象期間1－6月）については、米国では景気は緩やかな回復傾向にある。欧州のユーロ圏では景気は下げ止まり、ドイツ・イギリスにおいて個人消費持ち直しの動きが見られる。アジアでは中国において経済成長率が鈍化している。

このような状況下で当第2四半期連結累計期間の営業成績は、売上高は2,916億11百万円（前年同期比145億79百万円増）、営業利益は53億4百万円（前年同期比23億92百万円増）、経常利益は57億75百万円（前年同期比50億21百万円増）、第2四半期純利益は31億84百万円（前年同期比44億円増）となった。

事業の概況は次のとおりである。

#### ①水産事業

水産事業については、漁撈事業、養殖事業、加工・商事事業を営んでいる。

<当第2四半期連結累計期間の概況>

水産事業では売上高は1,143億65百万円（前年同期比37億51百万円増）となり、営業利益は8億73百万円（前年同期比17億18百万円増）となった。

漁撈事業：前年同期比で減収、増益となった。

- ・日本では、海外まき網漁業において、かつおの漁獲・販売が順調に推移した。近海漁業では、さばの魚価が堅調に推移した。
- ・南米では、漁撈事業の縮小・撤退を進めたので減収となった。

養殖事業：前年同期比で減収、減益となった。

- ・日本では、ぶり養殖事業で魚価が回復し販売数量が増加したが、まぐろ養殖事業は販売数量が減少し魚価も下落した。
- ・南米では、鮭鱒養殖事業で魚価が上昇したが、魚病の影響もあり水揚げ数量が減少し、原魚コストが上昇した。

加工・商事事業：前年同期比で増収、増益となった。

- ・日本では、水産物の在庫圧縮を進めるとともに鮭鱒、えびが高値で推移した。
- ・北米では、助子の生産量が減少するとともに、すけそうだらの小型化によりすりみの生産量が増加

し、全体として販売価格は下落した。

## ②食品事業

食品事業については、加工事業およびチルド事業を営んでいる。

<当第2四半期連結累計期間の概況>

食品事業では売上高は1,434億60百万円（前年同期比94億81百万円増）となり、営業利益は13億94百万円（前年同期比5億1百万円増）となった。

加工事業：前年同期比で増収、増益となった。

- ・日本では、家庭用冷凍食品、業務用冷凍食品において円安による輸入原材料・製品などの仕入価格の上昇によるコスト高があり、生産性の向上や販売経費の削減、販売価格の改定などに取り組んだ。
- ・北米では、家庭用冷凍食品会社で厳しい価格競争の結果、大幅に減益となった。業務用冷凍食品会社では外食卸向けの販売が順調に推移したが、主要原料のえび価格が上昇した。

チルド事業：前年同期比で減収、増益となった。

- ・コンビニエンスストア向け食品生産工場において生産品目の見直しがあり減収となったが、生産性の改善や廃棄ロスの削減などにより増益となった。

## ③ファイン事業

ファイン事業については、医薬原料、機能性原料（注1）、機能性食品（注2）、および医薬品、診断薬の生産・販売を行っている。

<当第2四半期連結累計期間の概況>

ファイン事業では売上高は142億円（前年同期比6億47百万円増）となり、営業利益は36億83百万円（前年同期比1億45百万円増）となった。

- ・医薬原料は前年同期並みに推移し、機能性食品については、通信販売での広告宣伝により販売が好調に推移した。連結子会社の日水製薬株式会社においては臨床診断薬事業などの販売が伸び悩んだ。

## ④物流事業

物流事業については、冷蔵倉庫事業、配送事業、通関事業を営んでいる。

<当第2四半期連結累計期間の概況>

物流事業では売上高は70億2百万円（前年同期比5億26百万円増）となり、営業利益は7億85百万円（前年同期比1億43百万円減）となった。

- ・共同配送事業の新規取り組みなどにより増収となったが、冷蔵倉庫事業において取扱量が減少した。

（注1）主に食品素材や化粧品素材向けとなるEPA・DHA、グルコサミン、コレステロール、オレンジラフィー油など。

（注2）特定保健用食品「イマーク」・「イマークS」やEPA・DHA、グルコサミンなどのサプリメント。



## (2) 財政状態の分析

### (資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて7.5%増加し、2,167億2百万円となった。これは受取手形及び売掛金が24億17百万円、商品及び製品が107億11百万円増加したことなどによる。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて0.6%減少し、2,186億72百万円となった。これは有形固定資産が34億13百万円減少したことなどによる。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて3.3%増加し、4,353億74百万円となった。

### (負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて5.4%増加し、2,132億42百万円となった。これは支払手形及び買掛金が19億46百万円、短期借入金が117億91百万円増加したことなどによる。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて3.2%減少し、1,509億76百万円となった。これは長期借入金が70億99百万円減少したことなどによる。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて1.6%増加し、3,642億18百万円となった。

### (純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて78億59百万円増加し、711億56百万円となった。これは主として四半期純利益31億84百万円及び為替換算調整勘定が29億34百万円増加したことなどによる。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末比6億29百万円減少し、175億39百万円となった。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは税金等調整前四半期純利益68億9百万円（前年同期比70億93百万円増）、減価償却費78億40百万円（前年同期比94百万円減）、たな卸資産の増加89億18百万円（前年同期比51億1百万円増）、仕入債務の増加17億22百万円（前年同期比5億95百万円減）、未払費用の減少39億80百万円（前年同期比67億93百万円減）などの結果、3億58百万円の支出（前年同期比19億7百万円支出減）となった。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは有形固定資産の取得による支出48億98百万円（前年同期比47億79百万円減）、有形固定資産の売却による収入32億66百万円（前年同期比11億25百万円増）などにより、37億24百万円の支出（前年同期比78億49百万円支出減）となった。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは短期借入金による純増減額93億5百万円（前年同期比120億2百万円減）、長期借入れによる収入22億42百万円（前年同期比89億97百万円減）、長期借入金の返済による支出82億90百万円（前年同期比100億6百万円減）などにより27億86百万円の収入（前年同期比96億34百万円収入減）となった。

#### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更はない。

なお、当社は財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりである。

##### ①当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

上場会社である当社の株券等については、株主をはじめとする投資家による自由な取引が認められていることから、当社取締役会としては、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方は、最終的には株主全体の意思により決定されるべきものであり、特定の者の大量取得行為に応じて当社株券等を売却するか否かについても、最終的には当社株主の判断に委ねられるべきものであると考えている。

その一方で、会社の取締役会の賛同を得ずに行う企業買収の中には、(i)重要な営業用資産を売却処分するなど企業価値を損なうことが明白であるもの、(ii)買収提案の内容や買収者自身について十分な情報を提供しないもの、(iii)被買収会社の取締役会が買収提案を検討し代替案を株主に提供するための時間的余裕を与えないもの、(iv)買収に応じることを株主に強要する仕組みをとるもの、(v)当社グループの持続的な企業価値増大のために必要不可欠なお客様、取引先および従業員等のステークホルダーとの間に築かれた関係を破壊するもの、(vi)当社グループの技術と研究開発力、グローバルネットワークによる水産物のサプライチェーン、安全・安心な商品・サービスの提供など当社グループの本源的価値に鑑み不十分または不適当なもの、など当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益に反するものも想定される。

当社としては、このような大量取得行為をおこなう者は当社の財務および事業の方針の決定を支配する者として不適切であり、この不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するため、当社グループの企業価値ひいては株主の皆様を確保し、向上させる目的をもって当社株券等の大量取得行為に関する対応策（以下「本プラン」という。（注））を講じることが必要と考えている。

（注）当社は、平成21年5月15日開催の取締役会において、本プランの導入を決議し、平成21年6月25日開催の第94期定時株主総会において議案として付議し、承認可決された。また、本プランが平成23年6月28日開催の第96期定時株主総会終結の時をもって有効期間満了となったことに伴い、同定時株主総会における承認に基づき、本プランを一部変更し、継続した（以下継続したプランを「本プラン」という。）。

##### ②基本方針の実現に資する取組み

当社では、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させるための取組みとして次の施策を既に実施している。

##### イ. 中期経営計画による企業価値向上への取組み

当社は、創業100年を迎える2011年に向けて2006年度より中期経営計画である「新TGL—True Global Links—計画」をスタートし、より広くより効率的に世界のパートナーと連携して水産資源をお客様の価値に変換する領域で最大限のシナジーを創り出すため、メーカー機能をコアとした高収益の事業構造を確立する活動を推進してきた。

2012年以降の経営計画については、次の100年につなげるために「今こそニッスイの原点に帰ろう。」という考え方を中心にすえて、今後の生活シーンや消費構造の変化に対応し、当社および当社グループとしての機能を発揮して世界のお客様の期待に応えていくことをポイントとした新中期経営計画「中期経営計画2014（MVI P）」を策定し、推進していく。

「中期経営計画2014（MVI P）」の経営の基本方針は以下のとおりである。

〔「中期経営計画2014（MVI P）」経営の基本方針〕

私たちは、水産資源の持続的利用と地球環境の保全に配慮し、水産物をはじめとした資源から、多様な価値を創造し続け、世界の人々のいきいきとした生活と希望ある未来に貢献します。

#### 《5つの基本戦略》

- i. お客様にお役立ちできる既存の事業やカテゴリーを磨き続ける。
- ii. お客様の変化にお応えできる新しいカテゴリーをご提案し続ける。
- iii. 既存の漁業、養殖に買付けも加えた資源アクセスの強化。
- iv. バリューネットワークへの進化と高度化。
- v. グループ内外との協働を強化し国内外への販売力を強化する。

#### 《3つのお役立ち》

- i. 生活シーンに入り込んだ機能価値を創造しご提案していく。
- ii. 環境・社会との共生を更に深め、また、様々な情報を積極的に発信していく。
- iii. 食だけでなく、お客様の心と身体へのやさしさもご提案していく。

#### ロ. コーポレート・ガバナンスの強化

当社は、当社グループ全体の継続的な企業価値向上を具現化していくためにはコーポレート・ガバナンスの強化が必要であると認識しており、重要な戦略を効率的かつ迅速に決定、実行していく業務執行機能と、業務執行に対する監督機能を明確化し、経営における透明性を高めるための各種施策の実現に取り組んでいる。

具体的には、株主に対する取締役の経営責任を一層明確にするため、平成18年6月28日開催の第91期定時株主総会において取締役の任期を2年から1年に短縮し、平成21年5月15日開催の取締役会において、平成21年6月25日開催の第94期定時株主総会終了後に執行役員制度を導入すること、及び第94期定時株主総会で取締役総数を削減する定款変更議案と社外取締役2名を含む取締役選任議案とを上程することを決議し、上程された議案は、第94期定時株主総会で承認可決された。

#### ③本プランの内容

##### イ. 本プラン導入の目的

本プランは、基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するため、当社グループの企業価値ひいては株主の共同の利益を確保し、向上させる目的をもって導入されるものである。

##### ロ. 本プランの内容

###### (i) 対抗措置発動の対象となる行為

本プランは、(a)当社が発行者である株券等について、保有者の株券等保有割合が20%以上となる買い付けその他の取得、または、(b)当社が発行者である株券等について、公開買付けに係る株券等の株券等所有割合及びその特別関係者の株券等所有割合の合計が20%以上となる公開買付けに該当する行為もしくはこれに類似する行為またはこれらの提案がなされる場合を適用対象とする。

###### (ii) 買付説明書の提出

買付者等には、買付内容の検討に必要な情報および本プランに定める手続きを遵守する旨の誓約文言等を記載した書面(買付説明書)の提出を求め、当社は、買付説明書を受領後速やかに独立委員会に提供しその旨を情報開示する。

###### (iii) 株主意思確認手続きまたは独立委員会への諮問手続きの選択

当社取締役会は、買付者等からの情報・資料等の提供が十分になされたと認めた場合には、所定の取締役会検討期間を設定し必要に応じて外部専門家の助言を得ながら買付内容等を十分に評価・検討等し、対

抗措置として本新株予約権の無償割当ての実施または不実施について、株主意思確認手続を実施するか、または、独立委員会に諮問するか、等について決議する。

(a) 株主意思確認手続の実施を決議した場合

株主意思確認総会等において株主投票を実施する。投票権を行使できる株主は、投票基準日の最終の株主名簿に記録された株主とし、投票権は、議決権1個につき1個とする。株主意思確認総会等における株主投票は、当社の通常の株主総会における普通決議に準じて賛否を決するものとし、当社取締役会は決議の結果に従い、本新株予約権の無償割当ての実施または不実施について速やかに決議する。また、当社取締役会は、株主意思確認手続を実施する旨の決議を行った場合、当社取締役会が株主意思確認手続を実施する旨を決議した事実及びその理由、株主意思確認手続の結果の概要、その他当社取締役会が適切と判断する事項について、速やかに情報開示を行う。

(b) 独立委員会への諮問を決議した場合

当社取締役会は、株主意思確認手続によらず本新株予約権の無償割当てを実施すると判断した場合、その合理性及び公正性を担保するために、当社の社外取締役及び社外監査役並びに社外の有識者で構成される独立委員会に諮問する。

この場合には、独立委員会は、取締役会から買付者等の買付説明書の提供を受けるのみならず、買付者等に対して買付等の内容に対する意見、その根拠資料、代替案その他独立委員会が適宜必要と認める情報・資料等を提示するよう要求することができる。また、独立委員会は、当社グループの企業価値ひいては株主の共同の利益の確保・向上という観点から当該買付等の内容を改善させるために必要であれば、当該買付者等と協議・交渉等を行うことができるものとする。

独立委員会は、買付者等の買付等の内容の評価・検討、買付者等との協議・交渉等の結果、買付者等による買付等により当社の企業価値ひいては株主の共同の利益が毀損されるおそれがあると認められる場合、当社取締役会に対して本新株予約権の無償割当てを実施することを勧告する。また、独立委員会は、このような買付等に該当しない場合は本新株予約権の無償割当てについて株主意思確認手続を実施することを勧告する。

当社取締役会は、独立委員会による勧告を最大限尊重し速やかに決議を行うとともに、情報開示を行う。

(iv) 対抗措置の具体的内容

当社は、本プランに基づき発動する、大規模買付行為に対する対抗措置として、本新株予約権の無償割当てを実施する。本新株予約権の無償割当ては、当社取締役会決議において定める割当期日における当社の最終の株主名簿に記録された当社以外の株主に対し、1株につき本新株予約権1個の割合で無償で割り当てるものとする。但し、買付者等を含む非適格者や非居住者による権利行使は、原則として本新株予約権を行使することはできない。

(v) 本プランの有効期間

本プランは平成23年6月28日開催の当社第96期定時株主総会において承認可決され、その有効期間は、本定時株主総会終結後3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結のときまでとする。

但し、有効期間の満了前であっても、当社株主総会または当社取締役会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランはその時点で廃止されることになる。

(vi) 株主・投資家に与える影響等

本プラン導入後であっても、本新株予約権の無償割当てが実施されていない場合、株主に直接具体的な

影響が生じることはない。他方、本新株予約権の無償割当てが実施された場合、株主が本新株予約権の行使に係る手続きを行わなければその保有する当社株式が希釈化する場合がある。但し、当社が当社株式と引き換えに本新株予約権の取得を行った場合は、非適格者以外の株主の保有する株式の希釈化は生じない。

#### ④本プランに対する当社取締役会の判断及びその理由

当社取締役会は、本プランが基本方針に沿うものであり、当社の企業価値ひいては株主の共同の利益を損なうものではなく、また、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないものと考えている。

##### イ. 買収防衛策に関する指針の要件等を完全に充足していること

本プランは、経済産業省及び法務省が平成17年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則を充足している。

##### ロ. 株主意思を重視するものであること

本プランは、株主の意思を反映させるため、平成23年6月28日開催の第96期定時株主総会において議案として付議し、承認可決された。

なお、本プランの有効期間の満了前であっても、当社株主総会または当社取締役会において本プランを廃止する旨の承認がなされた場合には、本プランはその時点で廃止されることになり、その意味で、本プランの消長には当社株主の意思が反映されることとなっている。

##### ハ. 独立性の高い社外者の判断の重視と情報開示

当社は、本プランの導入にあたり、本プランの発動等に際して、当社取締役会の恣意的判断を排除し、株主のために実質的な判断を客観的に行う機関として、独立委員会を設置した。独立委員会は、社外取締役、社外監査役、社外有識者から構成されるものとしている。また、独立委員会の判断の概要については、株主に情報開示することとされており、運用において透明性をもって行われる。

##### ニ. デッドハンド型やスローハンド型買収防衛策ではないこと

本プランは、株主総会で選任された取締役により構成される取締役会の決議により廃止することができるものとして設計されており、デッドハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の過半数を交替させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策）ではない。また、当社は期差任期制を採用していないため、本プランはスローハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の交替を一度に行うことができないため、その発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策）でもない。

#### (5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は16億96百万円である。

なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はない。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,000,000,000
計	1,000,000,000

###### ② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	277,210,277	277,210,277	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 100株である。
計	277,210,277	277,210,277	—	—

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項なし。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年9月30日	—	277,210	—	23,729	—	6,000

## (6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	15,023	5.41
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	13,365	4.82
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区丸の内1-3-3	10,650	3.84
持田製薬株式会社	東京都新宿区四谷1-7	8,000	2.88
株式会社損害保険ジャパン	東京都新宿区西新宿1-26-1	6,475	2.33
ノーザン トラスト カンパニー (エイブイエフシー) サブアカウント アメリカン クライアント (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カストディ業務部)	50 BANK STREET CANARY WH ARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋3-11-1)	5,449	1.96
キッコーマン株式会社	千葉県野田市野田250	4,430	1.59
中央魚類株式会社	東京都中央区築地5-2-1	4,140	1.49
野村信託銀行株式会社(投信口)	東京都千代田区大手町2-2-2	3,803	1.37
みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区八重洲1-2-1	3,650	1.31
計	—	74,987	27.05

- (注) 1 三井住友信託銀行株式会社より平成25年7月19日付で提出された大量保有報告書(変更報告書)により、平成25年7月15日現在で同社を含む3社が共同保有として17,277千株(6.23%)を保有している旨の報告を受けているが、平成25年9月30日現在における所有株式数が確認できないので、上記大株主の状況には含めていない。
- 2 株式会社みずほ銀行より平成25年7月22日付で提出された大量保有報告書(変更報告書)により、平成25年7月15日現在で同社を含む4社が共同保有として20,979千株(7.57%)を保有している旨の報告を受けているが、平成25年9月30日現在における所有株式数が確認できないので、上記大株主の状況には含めていない。

## (7) 【議決権の状況】

### ① 【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 787,500 (相互保有株式) 普通株式 376,600	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 275,562,100	2,755,621	—
単元未満株式	普通株式 484,077	—	—
発行済株式総数	277,210,277	—	—
総株主の議決権	—	2,755,621	—

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が5,000株(議決権50個)が含まれている。

2 「単元未満株式」には、当社所有の自己株式22株が含まれている。

### ② 【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 日本水産株式会社	東京都千代田区大手町 2-6-2	787,500	—	787,500	0.28
(相互保有株式) 三共水産株式会社	静岡県静岡市葵区 流通センター1-1	40,400	—	40,400	0.01
(相互保有株式) 株式会社大水	大阪府大阪市福島区野田1 -1-86 大阪市中心卸売市場内	335,200	—	335,200	0.12
(相互保有株式) アンズコフーズ株式会社	東京都港区西新橋3-16- 11	1,000	—	1,000	0.00
計	—	1,164,100	—	1,164,100	0.41

(注) 株主名簿上は、当社名義となっているが、実質的に所有していない株式が1,000株(議決権10個)ある。

なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄に含めている。

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はない。



## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成している。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けている。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,106	13,249
受取手形及び売掛金	※2 70,573	72,990
商品及び製品	44,834	55,546
仕掛品	16,601	20,266
原材料及び貯蔵品	27,611	24,475
その他	28,371	30,678
貸倒引当金	△500	△504
流動資産合計	201,598	216,702
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	49,161	48,318
その他（純額）	63,445	60,875
有形固定資産合計	112,607	109,193
無形固定資産		
のれん	5,030	4,354
その他	12,394	12,498
無形固定資産合計	17,425	16,853
投資その他の資産		
投資有価証券	67,627	72,593
その他	27,730	24,380
貸倒引当金	△5,344	△4,347
投資その他の資産合計	90,013	92,625
固定資産合計	220,046	218,672
資産合計	421,645	435,374

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※2 32,416	34,362
短期借入金	130,736	142,528
未払法人税等	3,026	2,543
未払費用	24,099	20,286
引当金	4,954	5,195
その他	7,116	8,325
流動負債合計	202,350	213,242
固定負債		
長期借入金	131,940	124,840
退職給付引当金	17,069	18,119
その他の引当金	239	226
その他	6,747	7,790
固定負債合計	155,997	150,976
負債合計	358,348	364,218
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	23,729	23,729
資本剰余金	13,758	13,758
利益剰余金	15,883	19,067
自己株式	△257	△257
株主資本合計	53,113	56,297
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,455	5,854
繰延ヘッジ損益	△229	△107
為替換算調整勘定	△4,673	△1,738
在外子会社の年金債務調整額	△2,905	△3,308
その他の包括利益累計額合計	△3,352	700
少数株主持分	13,536	14,158
純資産合計	63,297	71,156
負債純資産合計	421,645	435,374

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
 【四半期連結損益計算書】  
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	277,032	291,611
売上原価	217,198	231,401
売上総利益	59,834	60,210
販売費及び一般管理費	※1 56,921	※1 54,905
営業利益	2,912	5,304
営業外収益		
受取利息	432	283
受取配当金	461	546
為替差益	—	446
助成金収入	351	657
雑収入	486	545
営業外収益合計	1,732	2,479
営業外費用		
支払利息	1,872	1,677
為替差損	922	—
持分法による投資損失	378	85
雑支出	717	246
営業外費用合計	3,890	2,009
経常利益	754	5,775
特別利益		
固定資産売却益	396	1,451
減損損失戻入益	—	※2 386
投資有価証券売却益	500	196
特別利益合計	897	2,034
特別損失		
固定資産処分損	290	180
減損損失	348	—
投資有価証券評価損	1,297	—
関係会社株式売却損	—	696
特別退職金	—	123
特別損失合計	1,935	1,000
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△284	6,809
法人税、住民税及び事業税	2,046	2,687
法人税等調整額	△555	563
法人税等合計	1,490	3,250
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△1,775	3,558
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△559	374
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,216	3,184

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△1,775	3,558
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△623	1,440
繰延ヘッジ損益	△113	△34
為替換算調整勘定	886	947
在外子会社の年金債務調整額	△47	△403
持分法適用会社に対する持分相当額	538	1,969
その他の包括利益合計	640	3,919
四半期包括利益	△1,134	7,477
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△800	7,237
少数株主に係る四半期包括利益	△334	239

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△284	6,809
減価償却費	7,935	7,840
減損損失	348	—
のれん償却額	747	737
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△527	△1,156
退職給付引当金の増減額(△は減少)	1,119	△235
受取利息及び受取配当金	△893	△829
支払利息	1,872	1,677
持分法による投資損益(△は益)	378	85
固定資産売却益	△396	△1,451
固定資産処分損	290	180
投資有価証券売却及び評価損益(△は益)	797	△196
減損損失戻入益	—	△386
関係会社株式売却損	—	696
特別退職金	—	123
事業整理損失引当金の増減額(△は減少)	△902	3
売上債権の増減額(△は増加)	△6,635	△142
たな卸資産の増減額(△は増加)	△3,816	△8,918
仕入債務の増減額(△は減少)	2,318	1,722
未払費用の増減額(△は減少)	2,813	△3,980
その他	△3,998	1,320
小計	1,164	3,898
利息及び配当金の受取額	918	550
利息の支払額	△1,856	△1,840
災害損失の支払額	△58	—
法人税等の支払額	△2,433	△2,967
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,265	△358
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の増減額(△は増加)	76	519
有形固定資産の取得による支出	△9,677	△4,898
有形固定資産の売却による収入	2,140	3,266
無形固定資産の取得による支出	△698	△488
投資有価証券の取得による支出	△285	△1,974
投資有価証券の売却による収入	1,033	1,440
投資有価証券の償還による収入	500	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,528	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	324	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	282
短期貸付金の増減額(△は増加)	△3,529	△2,539
その他	71	666
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,573	△3,724

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	21,308	9,305
長期借入れによる収入	11,240	2,242
長期借入金の返済による支出	△18,296	△8,290
リース債務の返済による支出	△275	△282
配当金の支払額	△1,382	—
少数株主への配当金の支払額	△172	△189
自己株式の増減額 (△は増加)	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	12,421	2,786
現金及び現金同等物に係る換算差額	84	666
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,334	△629
現金及び現金同等物の期首残高	14,981	18,169
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 13,647	※1 17,539

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	
(1) 連結の範囲の重要な変更	当第2四半期連結会計期間において、株式売却によりLEUCHTTURM BETEILIGUNGS - UND HOLDING GERMANY AGを連結の範囲から除外している。
(2) 持分法適用の範囲の重要な変更	重要な変更はない。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

連結子会社以外の会社の銀行からの借入に対して、保証を行っている。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
EUROPACIFICO ALIMENTOS DEL MAR S.L.	2,322百万円	1,800百万円
新潟魚市場物流(協)	601 "	561 "
他1社	59 "	55 "
計	2,982百万円	2,417百万円

※2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理している。

なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が、連結会計年度末残高に含まれている。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
受取手形	67百万円	—
支払手形	1,159 "	—

(四半期連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりである。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
販売手数料	14,442百万円	14,114百万円
配送配達費	12,047 "	12,674 "
給与諸手当	10,001 "	9,562 "



※2 減損損失戻入益

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

該当事項なし。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

在外子会社における建物及び構築物、土地等について実施した減損損失の国際財務報告基準に基づく戻入益である。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりである。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
現金及び預金	9,770百万円	13,249百万円
預入期間が3か月を超える 定期預金	△1 "	△1 "
流動資産その他に含まれる 短期貸付金	3,877 "	4,291 "
現金及び現金同等物	13,647百万円	17,539百万円

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月15日 取締役会	普通株式	1,382	5円00銭	平成24年3月31日	平成24年6月11日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項なし。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項なし。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項なし。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合 計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	水産事業	食品事業	ファイン 事業	物流事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	110,614	133,979	13,553	6,475	264,622	12,409	277,032	—	277,032
セグメント間の内部売上高又は振替高	6,055	715	132	3,677	10,580	1,219	11,800	△11,800	—
計	116,669	134,694	13,685	10,153	275,203	13,629	288,832	△11,800	277,032
セグメント利益又は損失(△)	△844	892	3,538	928	4,515	518	5,034	△2,121	2,912

(注) 1. 「その他」は、報告セグメントに含まれない船舶の建造・修繕やエンジニアリング等が対象となる。

2. セグメント利益の調整額△2,121百万円には、セグメント間取引消去41百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,162百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費である。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第2四半期連結累計期間において「水産事業」セグメントで売却予定の資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に210百万円計上した。また、いずれの報告セグメントに配分されていない遊休資産について138百万円を減損損失に計上した。

(のれんの金額の重要な変動)

「水産事業」セグメントにおいて金子産業株式会社の株式を取得し連結子会社としている。これによる当第2四半期連結累計期間におけるのれんの増加額は2,304百万円である。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項なし。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合 計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	水産事業	食品事業	ファイン 事業	物流事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	114,365	143,460	14,200	7,002	279,029	12,582	291,611	—	291,611
セグメント間の内部売上高又は振替高	5,478	624	137	3,410	9,650	983	10,633	△10,633	—
計	119,844	144,085	14,338	10,412	288,679	13,566	302,245	△10,633	291,611
セグメント利益	873	1,394	3,683	785	6,737	608	7,345	△2,040	5,304

(注) 1. 「その他」は、報告セグメントに含まれない船舶の建造・修繕やエンジニアリング等が対象となる。

2. セグメント利益の調整額△2,040百万円には、セグメント間取引消去35百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,075百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費である。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項なし。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項なし。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項なし。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は 四半期純損失金額(△)	△4円40銭	11円53銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は 四半期純損失金額(△)(百万円)	△1,216	3,184
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額又は 四半期純損失金額(△)(百万円)	△1,216	3,184
普通株式の期中平均株式数(株)	276,289,791	276,285,560

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、当第2四半期連結累計期間は潜在株式がないため記載していない。前第2四半期連結累計期間は1株当たり四半期純損失であり、潜在株式がないため記載していない。

## 2【その他】

第99期(平成25年4月1日から平成26年3月31日)中間配当については、平成25年11月5日開催の取締役会において、これを行わない旨を決議した。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月11日

日本水産株式会社  
取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	川井克之	Ⓜ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	伊藤栄司	Ⓜ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	腰原茂弘	Ⓜ

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本水産株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本水産株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

**【表紙】**

**【提出書類】** 確認書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の8第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成25年11月13日

**【会社名】** 日本水産株式会社

**【英訳名】** NIPPON SUISAN KAISHA, LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長執行役員 細見典男

**【最高財務責任者の役職氏名】** 代表取締役専務執行役員 小池邦彦

**【本店の所在の場所】** 東京都千代田区大手町二丁目6番2号

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長執行役員 細見 典男 及び当社最高財務責任者 小池 邦彦 は、当社の第99期第2四半期(自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

## 2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。



